

第64回農林水産祭における 天皇杯等三賞受賞者（林産部門）の紹介

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施しており、今年で64回目となります。

農林水産祭では、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方々の中から、7つの部門ごとに天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞を選賞し、表彰を行っています。

今回、林産部門では47の取組について審査が行われ、天皇杯に大白川生産森林組合（新潟県魚沼市）、内閣総理大臣賞に吉田正平氏（石川県気仙郡住田町）、日本農林漁業振興会会長賞に常陸太田市森林組合（茨城県常陸太田市）が選賞されましたので、紹介します。

天皇杯

おわしらかわ
大白川生産森林組合（新潟県魚沼市）
川上から川下までの関係者が連携した豪雪地のブナ林経営

同生産森林組合は、かつて新炭林だったブナの共有林を昭和47年に受け継いで以降、地の森林組合や建設会社の協力も得ながら間伐・小面積皆伐を計画的に進め、50年以上にわたり地域のブナ林の持続的管理に取り組んでいます。

さらに、生産したブナ材を活用し、豪雪地特有の根曲がり部を使ったパークゴルフヘッドや、腐朽菌によるダメージを個性として取り入れた木製家具など、木材としての課題を克服した新たな製品をデザイナー・木工所等と協力しながら数多く生み出し、ブナ材の販売額向上につなげています。

これらの川上から川下までが連携した、ブナ林の持続的管理とブランド化によるブナ材の高付加価値化の取組が広く注目されています。



根曲がりを活用したパークゴルフヘッド



腐朽菌によるダメージを個性として取り入れた家具（「生態デザイン」のテーブル）



内閣総理大臣賞

よしだ しょうへい
吉田 正平氏(岩手県気仙郡住田町)
『創意工夫による高品質な苗木の安定供給で地域を支える』

吉田氏は、平成9年に吉田樹苗の経営を引き継いで以降、県内外の苗木生産者を訪問しながら技術力の向上に努め、県内生産者として初めてスギの挿し穂による苗木生産に成功しました。コンテナ苗の生産にも県内で初めて着手し、生産技術を確立させるなど県内コンテナ苗の第一人者として知られており、コンテナ苗の生産は年間約50万本に上っています。

また、県内外からの視察を積極的に受け入れるなど、苗木生産の技術・知識の普及を進めるとともに、エアコン、水洗トイレ、冷蔵庫を備えた作業員休憩所の設置や作業員の希望に応じた勤務時間を設定するなど、働きやすい環境の整備にも積極的に取り組んでいます。



日本農林漁業振興会会長賞

ひたらおた
常陸太田市森林組合
(茨城県常陸太田市)
『長期経営受託による安定経営と地域の森林への貢献』

同組合は、施業の集約化を図るため、森林所有者と10年間以上の長期間に及ぶ森林整備受託契約を締結し、計画的、集約的な森林施業を実施しています。市有林では森林情報のデジタル化による台帳整備に協力するとともに、15年間の市有林施業計画を提案し、まず5年間の施業受託を契約することで、事業量を確保し組合の経営基盤の強化を図っています。また、計画的な施業の集約化を進めてコストを削減し、森林所有者の山林所得向上を実現しています。



実りのフェスティバル

「実りのフェスティバル」は、農林水産祭の一環として、都道府県の農林水産物の展示や販売を中心として行う行事で、昭和37年から実施され、今年で64回目となります。令和7年度は10月31日(金)、11月1日(土)の2日間、サンシャインシティ(東京都豊島区)で開催されました。

「実りのフェスティバル」には都道府県・農林水産関係団体の展示等のほか、農林水産省が出展する政府特別展示コーナーもあり、林野庁からも出展しました。

林野庁のブースでは、国産材が原料の紙製飲料容器「カートカン®」の配布や国産材が使われた木製品の展示等を通じて、身近なものを木に変える「ウッド・チェンジ」の普及啓発を行いました。

来場者は、展示してある木材製品を手に取り、その良さを実感していました。また、「国産の木を使うことが、良いことと分かった」、「展示してあるような木の食器やおもちゃなど買ったり、使ったりしてみたい」、「最近、木造の大きな建物を見る機会が増えるなど、木の利用が進んできていると感じる」などといった感想をいただき、イベントは盛況のうちに終了しました。



カートカン®
間伐材を含む国産材を30%以上使用

